

繋ぐ廊下

Nakano city office

5108060 時田海士郎



公共空間は、一般的には町に開き、地域と一体となった運営をするのが正しい姿であろう。
しかしそれができている建物は一体どれくらいあるだろうか。
低層部にショッピングモールの複合施設や駅舎などは、
町に場所を提供しているが、気持ちのよい空間という“時間”を提供できていないように感じる。

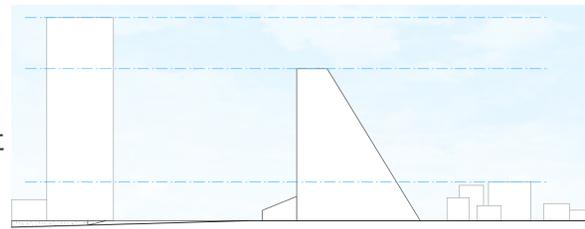
現在中野駅周辺は、再開発の最中である。
地上100メートル近くのオフィスビルが建ち、公開空地を取ることで町に開いている。
しかしそこには中野の町らしさが欠如している。

そこで、北口から続くサンモール商店街と、

オフィスビル建設中の中野セントラルパークとの丁度中間に位置するサンプラザと区役所の敷地に、人々のすどす時間を提供できる新駅前区役所を提案する。

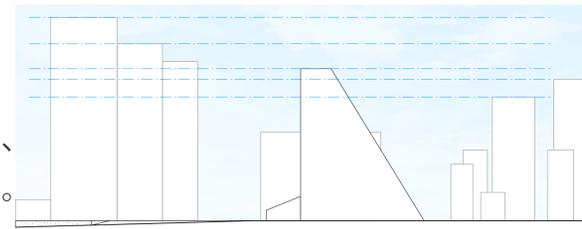
1973年

竣工当時は高さ
形の象徴性を誇っていた
中野サンプラザ。

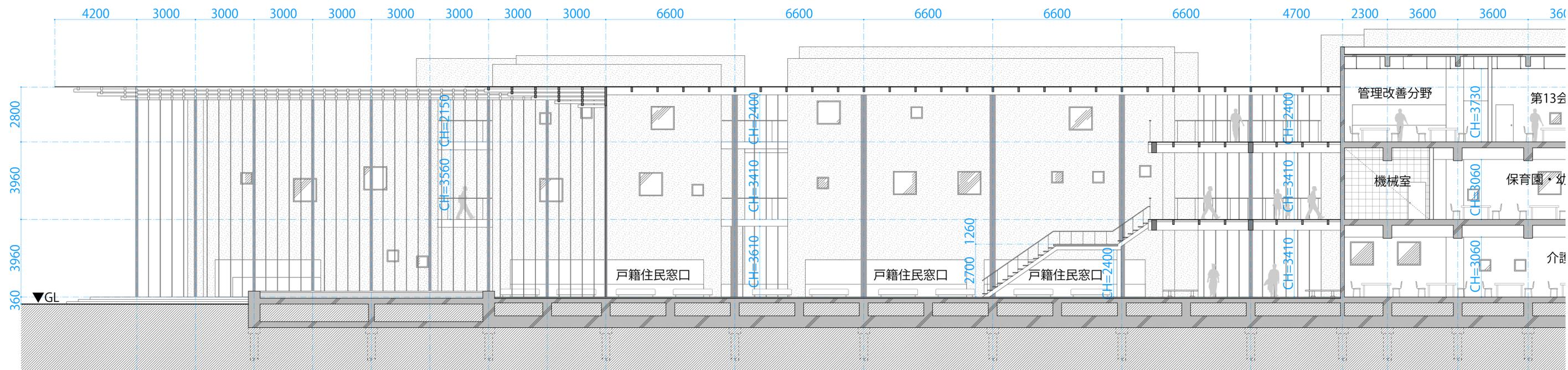
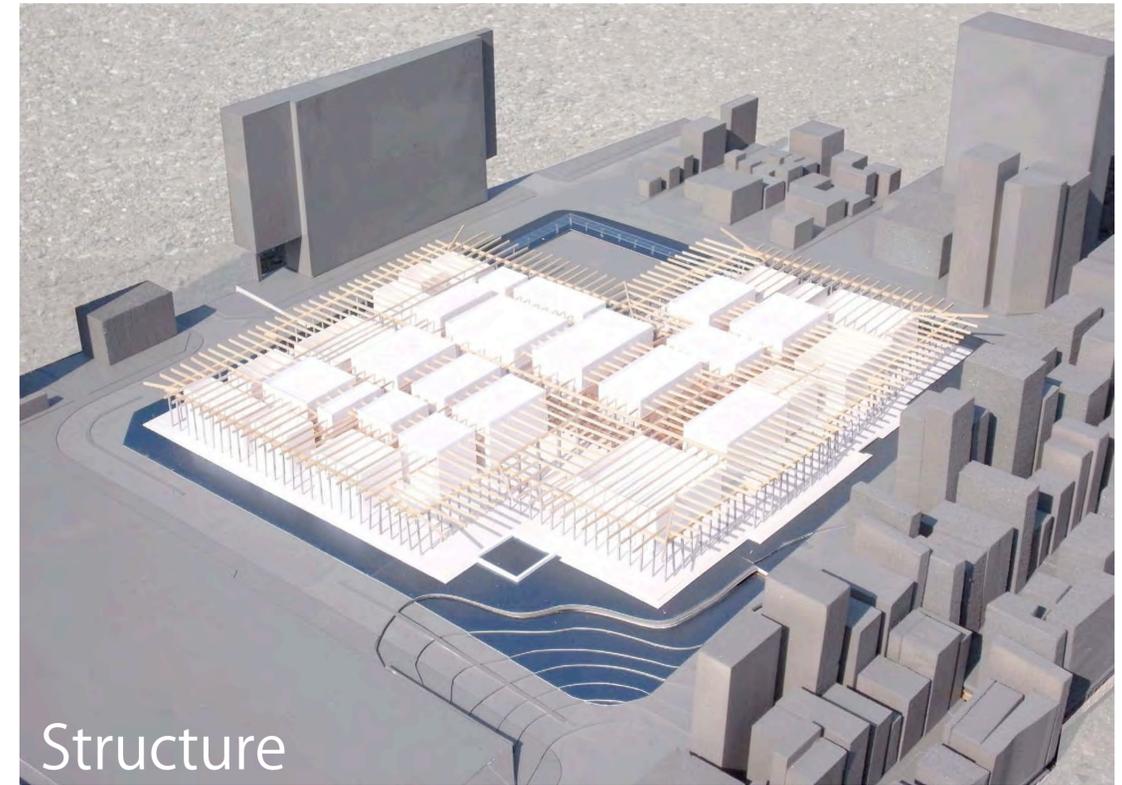
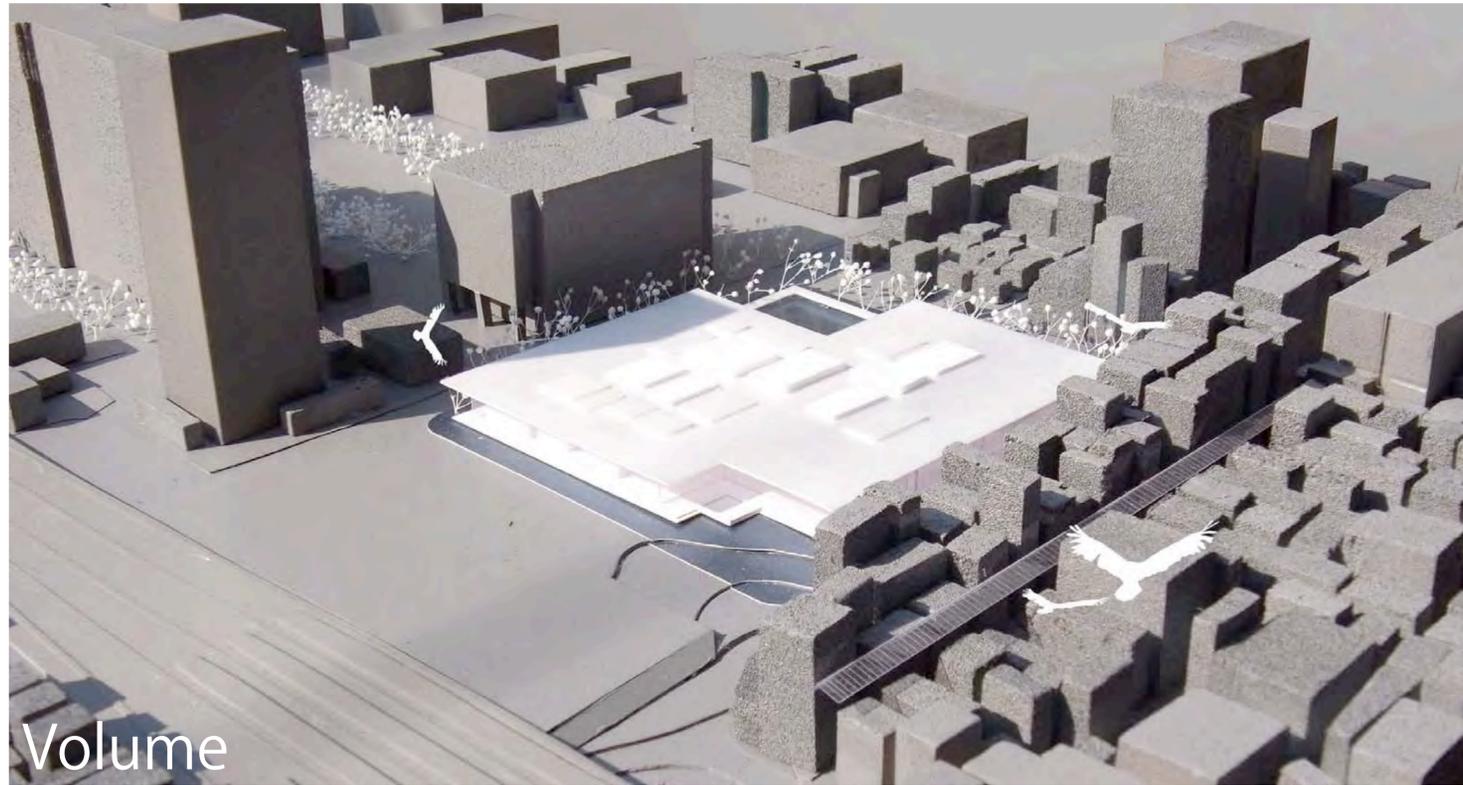


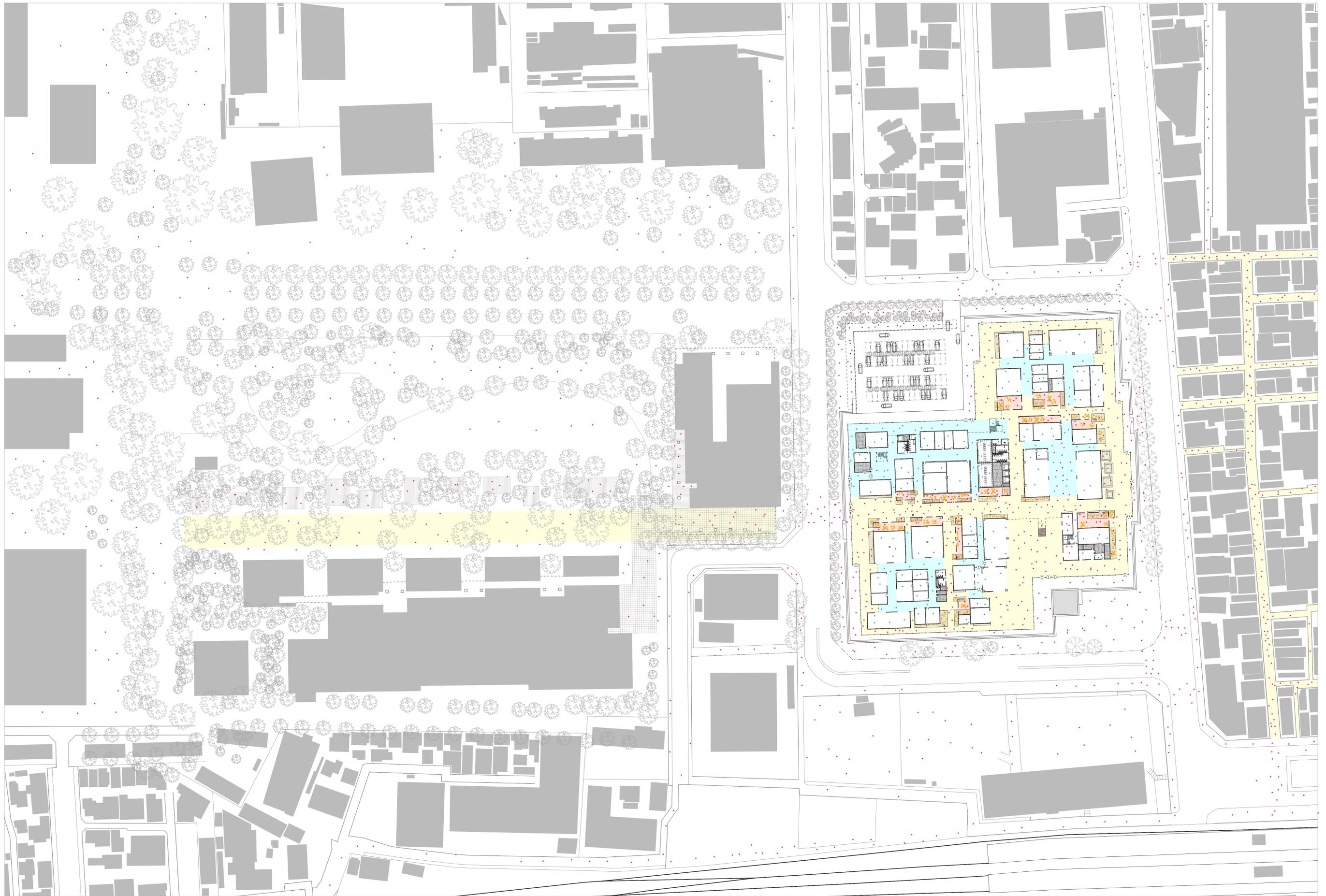
2012年

現在では
周囲の高層ビルに埋もれ、
その象徴性は薄れている。



低層にすることで、
ビルに囲まれた大きな空間ができる。
形でも高さでもないその“何も無い空間”
が駅前の新たなランドマークとなり、
中野という高密度地域の圧迫感を緩和する。





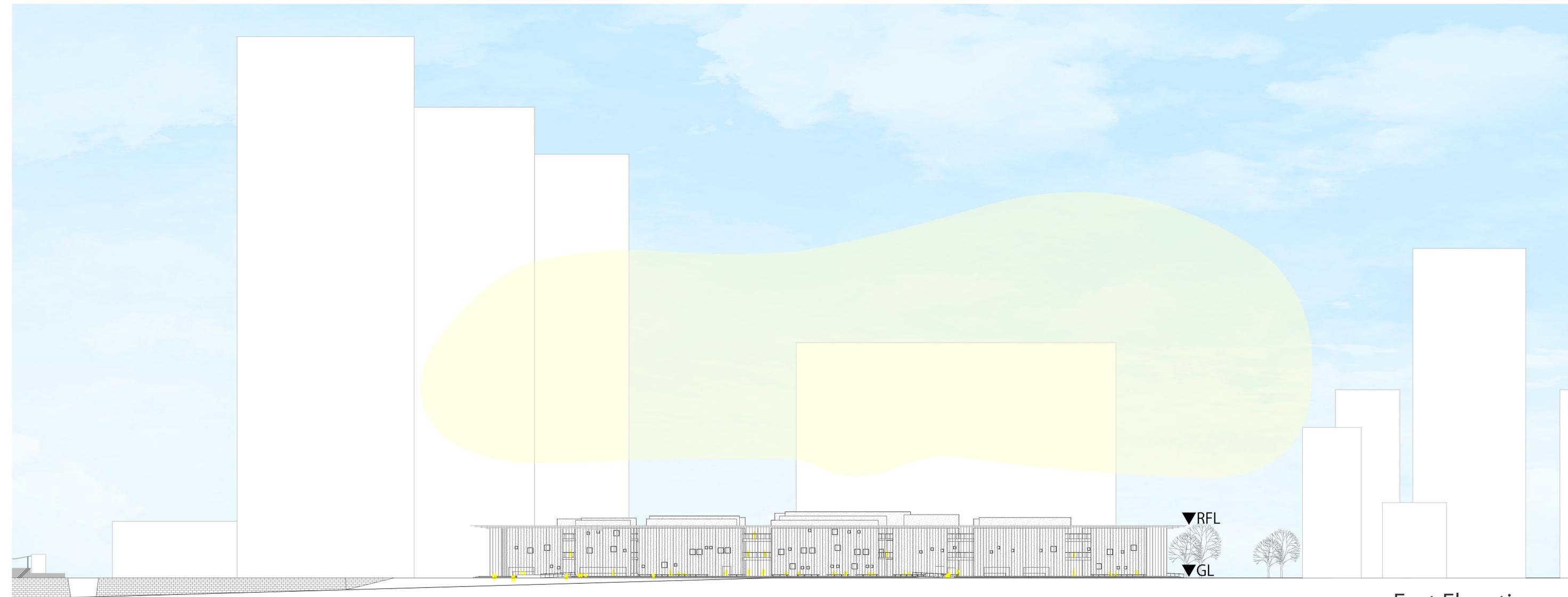
ギャラリー展示・工芸制作ワークショップ

賑わいの通り

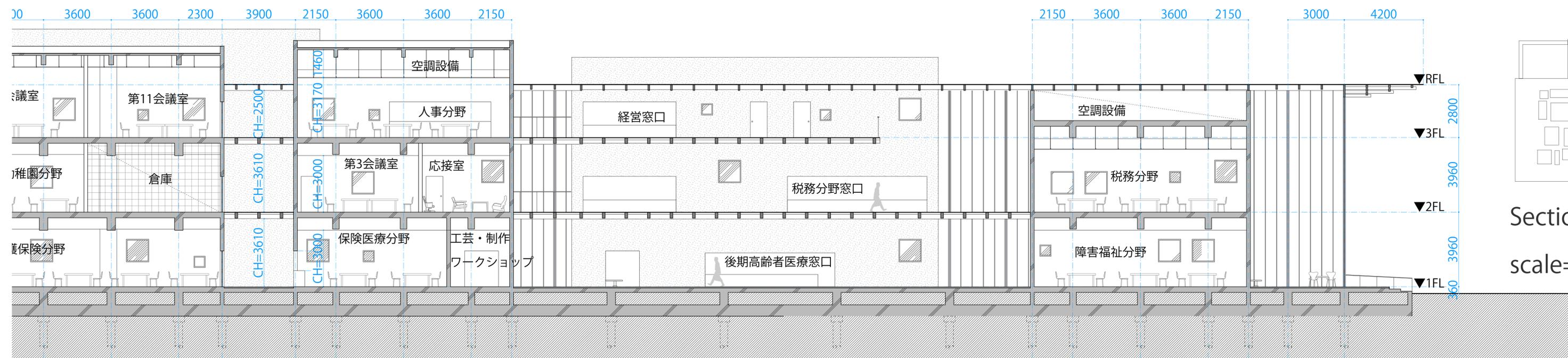
業務の通り

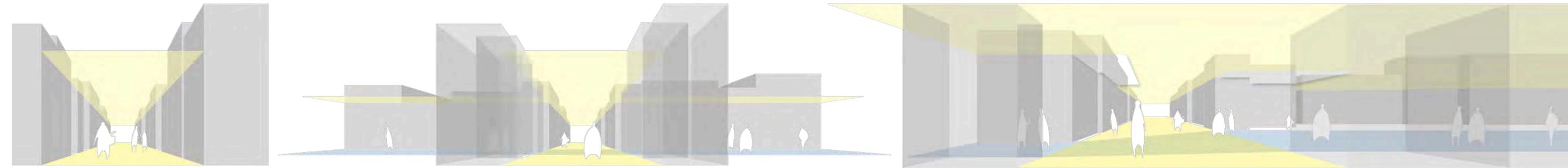


Site Plan scale=1/3000



East Elevation sc

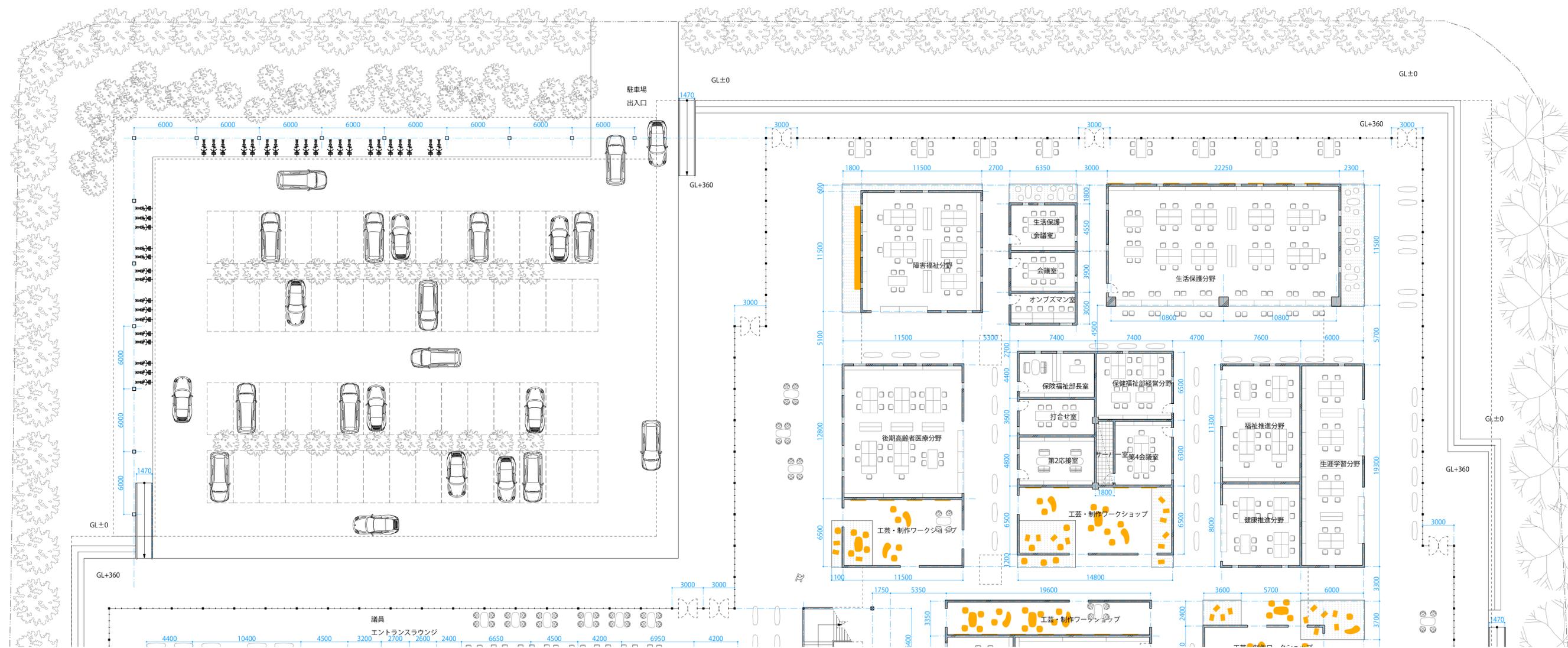




屋根を架けるだけで、外部空間が人の活動を促す建築空間に変わるアーケード商店街。

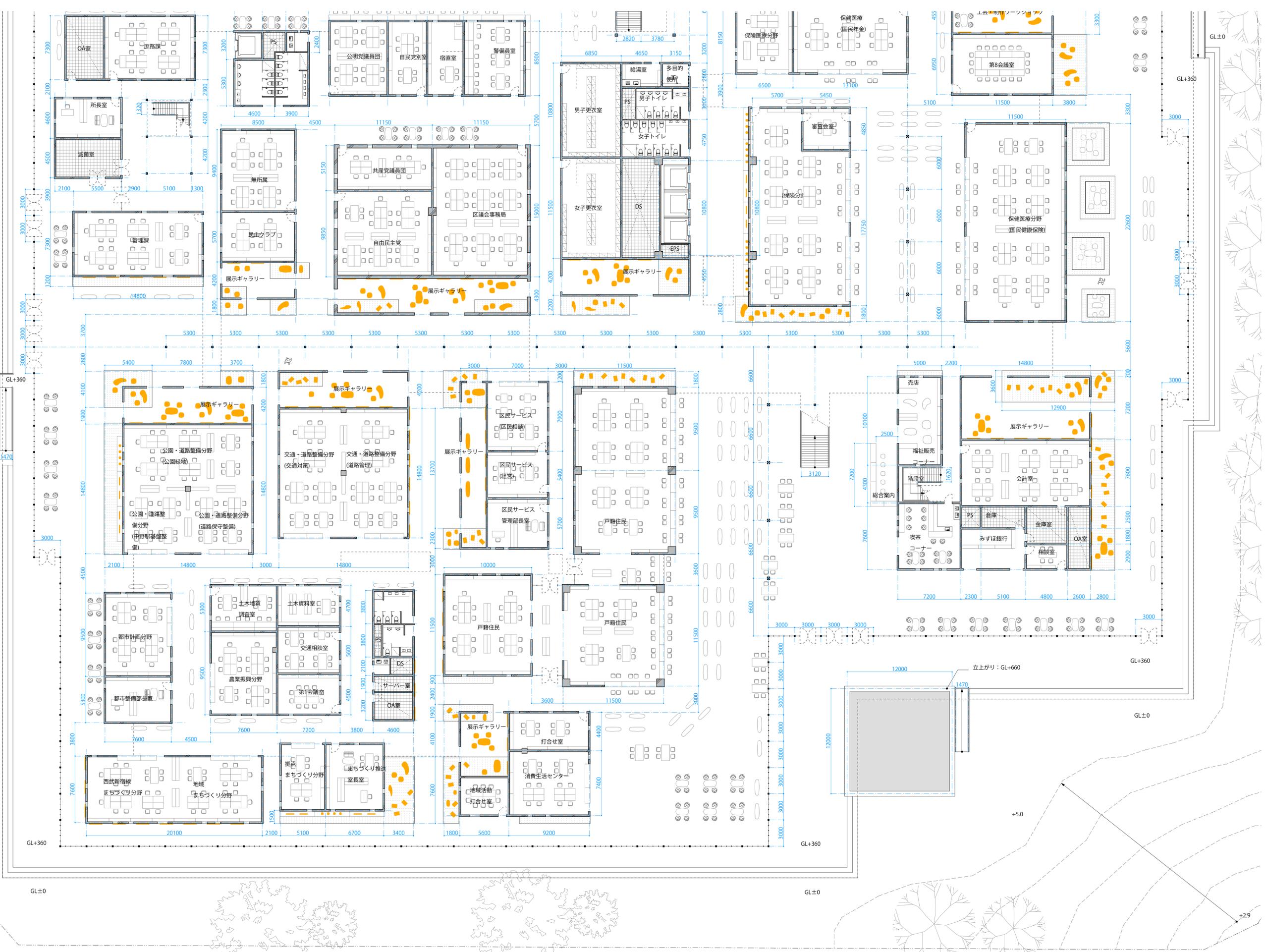
1本だけではなく、2本のアーケードが交差することで、2種類の通りが独立しながらも関係性を持ち、アーケードという建築空間が都市においてどこまでも広がって行ける。

中野のシンボルであったサンプラザ・区役所の形骸化されたボリューム内に、同じくシンボルであるサンモール商店街のような、通りが幾重にも重なるプランを落とし込むことで、駅前広場に隣接するにふさわしい庁舎を提案する。



scale=1/400

scale=1/100

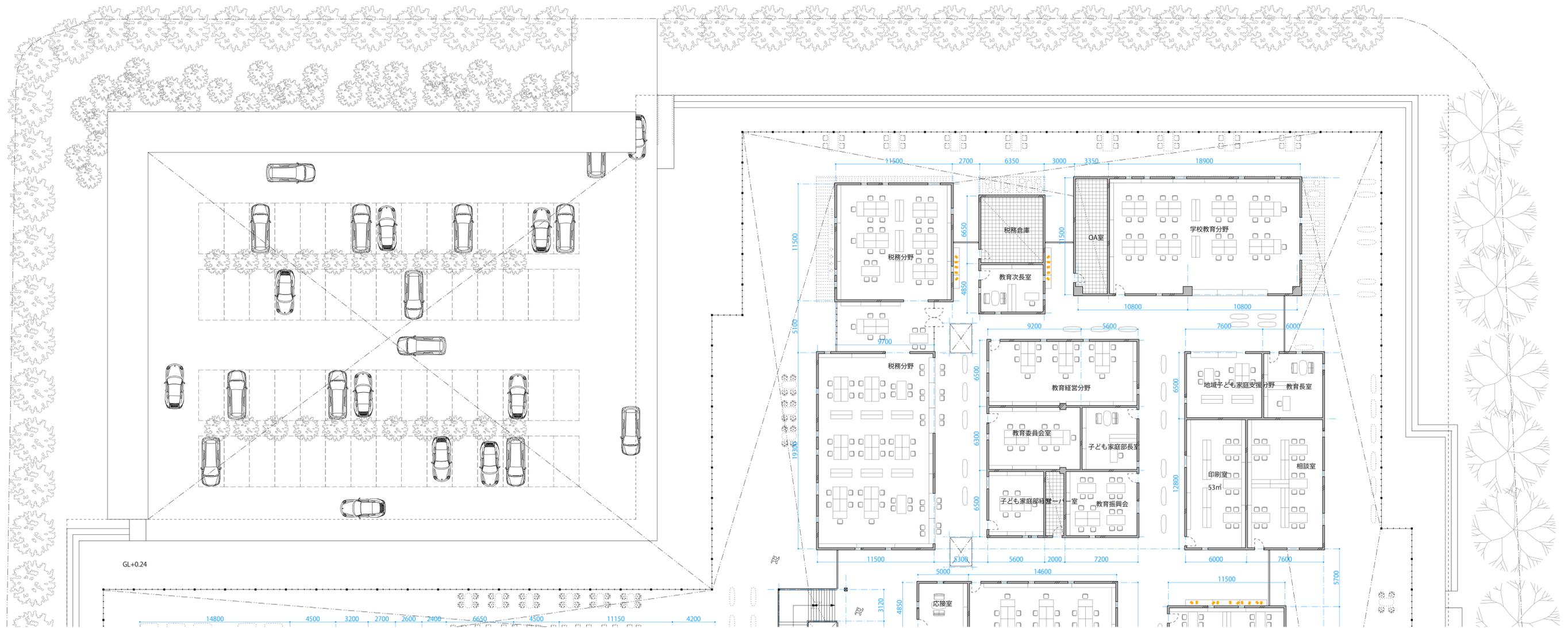


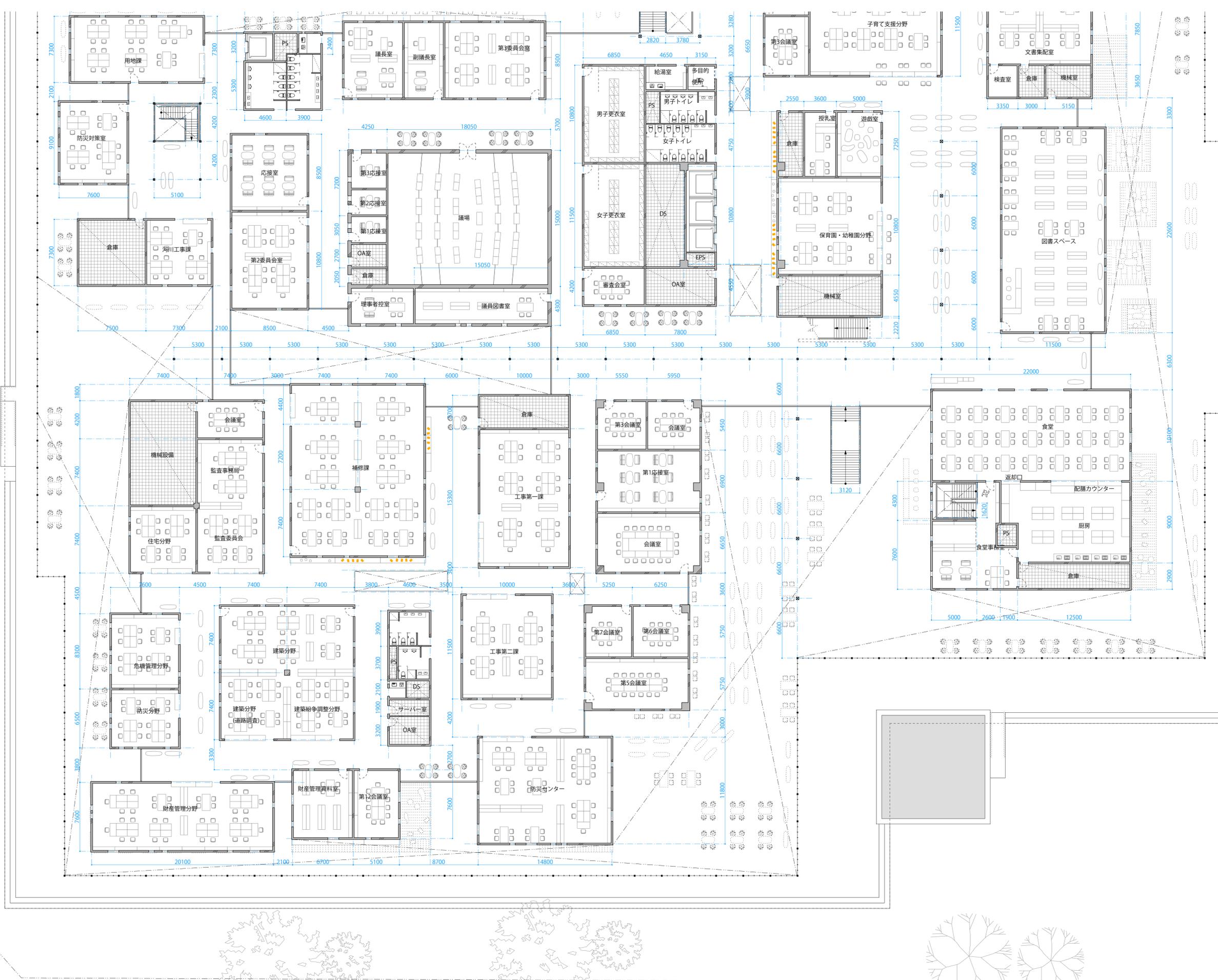
1F Plan scale=1/20

North Entrance



Gallery





N
2F Plan scale=1/200



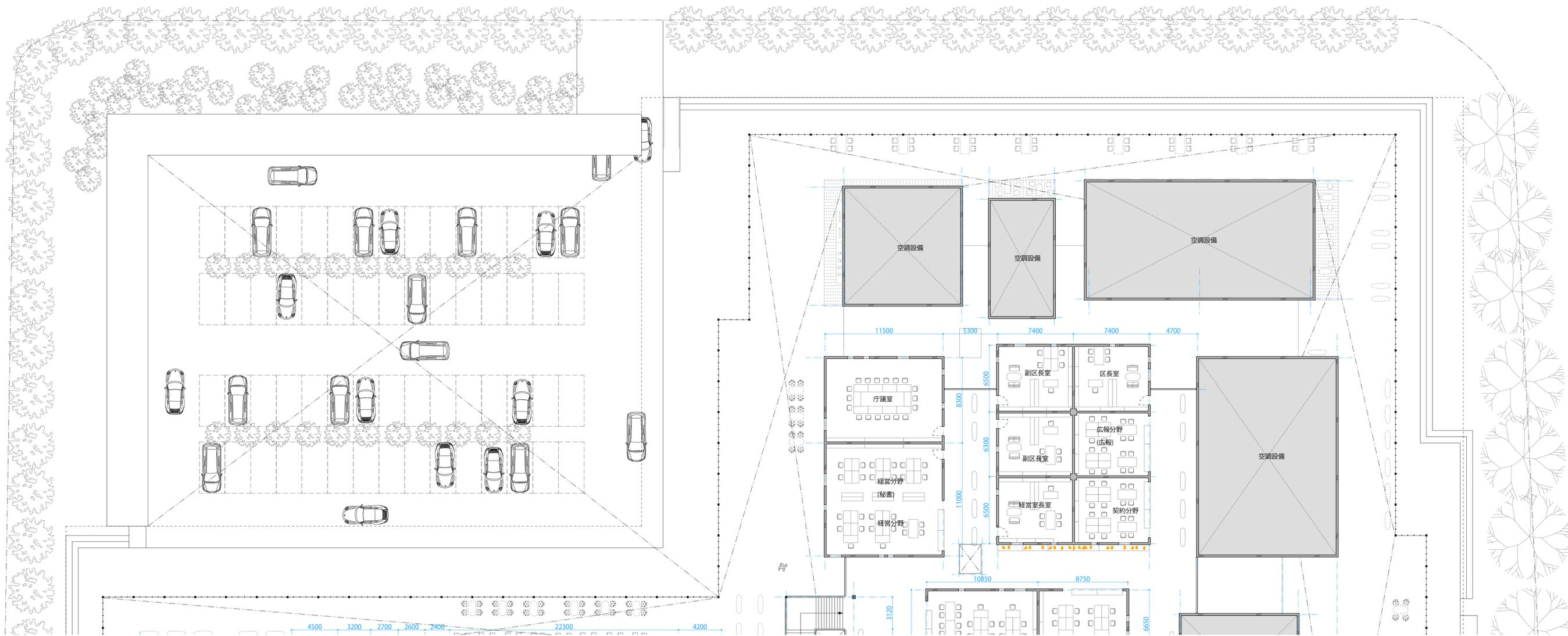
ery Street

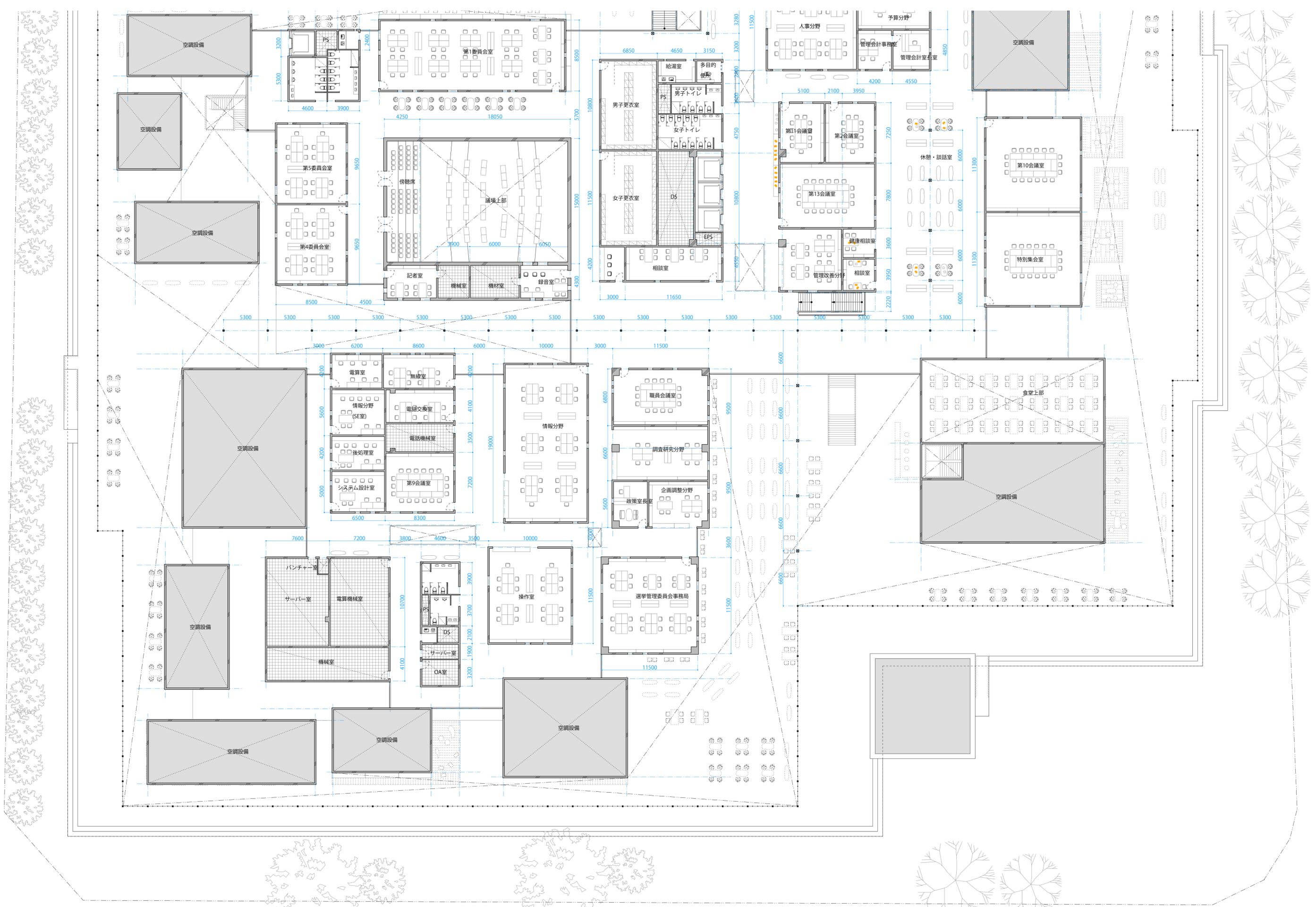


North Facade



Parking





N
3F Plan scale=1/200